

学科 学年	S 1	科目 分類	化学 Chemistry	講義と実験 必修	H18 通年 2履修単位	学習教育 目標 B	担当	浦崎 巖 URASAKI Iwao
概要	物質を処理し、化学現象を探究することによって、これらに関する基本的な事実、概念などを論理的、系統的に理解させ、化学の見方、考え方をかん養し、広く自然の諸現象を科学的に理解させるようにする。化学では、物質の成り立ち及び状態に関する化学の基礎の学習に重点を置き、化学へ引き継ぐ。実験もできるだけ多く実施し、科学の方法を身につけさせる。							
科目目標 (到達目標)	化学の役割や物質の扱い方を理解し、物質を探究する方法を身に付ける。物質の構成粒子及び化学結合の基本的な概念や物質の構造を理解し、物質について微視的な見方ができる。粒子の相対質量と物質量の概念を理解し、物質量等に関する計算ができる。気体、液体、固体、及び溶液の性質や法則を理解する。							
教科書 器材等	化学、化学 検定教科書 数研出版、リード 化学 + 問題集 数研出版、実験を安全に行うために 化学同人、資料及び練習問題プリント、ビデオ教材							
評価の基準と 方法	定期試験の平均成績を70%、平素の成績(小テスト、演習・宿題の実施状況、実験のレポート、授業への積極姿勢など)を30%として評価する。							
関連科目	生物、物理							
授 業 計 画								
	参観	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)						
第1回		物質の構成：	物質の成分					
第2回			原子					
第3回			電子配置、イオン					
第4回				[実験：硫黄の同素体]				
第5回				元素の周期律				
第6回			粒子の結合：	イオン結合とイオンからなる物質				
第7回		×	<前期中間試験>					
第8回				分子と共有結合				
第9回				電気陰性度と極性分子、共有結合の結晶				
第10回				金属結合と金属の結晶				
第11回				[実験：結晶格子の模型をつくる]				
第12回			粒子の相対質量と物質量：	原子量・分子量・式量				
第13回				物質量				
第14回				化学反応式の作り方				
第15回		×	<前期末試験>					
第16回				化学反応式と物質量				
第17回				[実験：化学反応の量的な関係]				
第18回			物質の三態：	拡散と粒子の熱運動、分子間力と三態の変化				
第19回				物質の融点・沸点などの性質				
第20回			気体：	気体の体積、ボイル・シャルルの法則				
第21回				混合気体の圧力、実在気体				
第22回				[実験：分子量の測定]				
第23回		×	<後期中間試験>					
第24回			溶液：	溶解のしくみと溶解度				
第25回				溶液の濃度				
第26回				気体の溶解度				
第27回				[実験：溶解度曲線]				
第28回				希薄溶液の性質				
第29回				コロイド溶液				
第30回		×	<学年末試験>					
オフィスアワー	昼休み及び会議のない7時限以降はほとんど毎日質問に応ずることができる。							
授業アンケートへの対応	スピーカーを使用し、出来るだけ聞き取りやすい話し方をするとともに、板書についてもなるべく見やすく書くように心掛ける。							
備考	授業に関する質問は、 urasaki@numazu-ct.ac.jp への電子メールでも受け付ける。							
更新履歴	060210 新規							